

オリジナル性を有し、生産性が高いバラ新品種候補 「ひたち4号」、「ひたち5号」の育成

農業総合センター生物工学研究所

茨城県の県花であるバラは産出額約3億円で、主要な施設花き切花品目の一つです。近年、花き需要の低迷や燃料費高騰、さらに全国で生産される品種の画一化により産地間の差別化が困難な状況であり、経営が圧迫されています。当研究所では他産地との差別化が可能なオリジナル性を有し、生産性が高いバラの育成に取り組んでいます。今回、商品性、収量性に優れ幅広い用途に適する淡いピンク色の中輪バラ「ひたち4号」と、花弁縁が桃色の淡黄白色の中大輪バラ「ひたち5号」を育成しました。

「ひたち4号」の特性

- 淡いピンク色の上品な花色で、香りを有するカップ咲きの中輪バラです。
- 多収性品種「アヴァランチュエ+」と比較して採花本数（収量性）は多く、切花長、切花重及び茎径は「アヴァランチュエ+」より小さいです。
- 市場関係者からは、花色と商品性が優れ幅広い用途に適すると評価されました。
- 生産者からは、新品種導入の際に重要視する収量性や商品性等の項目で良～普通と評価されました。



図1 「ひたち4号」の花姿



図2 「ひたち5号」の花姿



「ひたち5号」の特性

- 花色は白～淡黄に花弁の縁がピンク色を呈する複色で、ほのかな香りを有する大輪バラです。
- 多収性品種「アヴァランチュエ+」と同等に採花本数（収量性）は多く、切花長、切花重、花蕾長及び茎径は「アヴァランチュエ+」と同程度です。
- 市場関係者からは、花形とボリュームが優れ小売りを中心に幅広い用途に適すると評価されました。
- 生産者からは、新品種導入の際に重要視する収量性や商品性等の項目で良～普通と評価されました。

将来の展望

- 幅広い用途に供される高収量性の品種として利用が期待され、年間5.5万本の出荷本数が見込まれます。
- いばらきフラワーパークなどと連携して県オリジナルバラ品種のPRを行うことで、茨城県のバラの知名度向上と、県産バラの消費拡大を図っていきます。



図3 いばらきフラワーパークに植栽されている県オリジナル品種「紫峰」(左)と「ひたち乙女」(右)